

あぶくま川

原作…宮沢賢治 『やまなし』より
脚本…清野 和也

◎ 登場人物

兄の蟹（一場）／姉の人間（二場）
弟の蟹（一場）／妹の人間（二場）

一場 十月のこと

1916年（大正5年）、10月4日の夜。盛岡高等農林学校1年の宮沢賢治が福島市の阿武隈川隈畔を訪れている。賢治と福島、たった一度だけの出会いである。賢治は、「たゞしげし群とはなれて阿武隈の岸にきたればこほろぎなけり」「水銀のあぶくま河にこのひたひぬらさんとしてひとり来りぬ」という短歌を残している。

歌のとおり、こおろぎの声が聞こえるが、少しくぐもっている。波の音が静かに響いている。この作品は、賢治がひとり眺めた「川の中」の物語である。なお、宮沢賢治による「やまなし」の設定、言葉を一部引用している。

蟹達

小さな谷川の底を映した青い幻燈（げんとう）です。

「幻燈」とあるようにこの演劇は視覚に主眼が置かれることが望ましい。水の中に月の光が差し込んでいる

弟蟹

兄さん、きれいだね

兄蟹

うん、きょうは月の灯りがとっても明るい

弟蟹

少しだけ顔を出してみようか

兄蟹

ダメだよ、かわせみにさらわれてしまう

弟蟹

そんなことないよ、父さんが言ってたじゃないか。おれたちはかまわないって

兄蟹

こわい所に連れていかれるよ

弟蟹

兄さん、こわいんだ

兄蟹

違うよ。怖くなんてない。もしかかわせみが来たら、僕のハサミで、つまんでや

弟蟹

るんだ

弟蟹

僕だって

兄蟹 お前のハサミはまだ小さいからダメだよ

弟蟹 そんなことないよ。僕のはさみの方が大きい

兄蟹 近くだから自分のが大きく見えるんだよ

弟蟹 そうかなあ

兄蟹 それに兄さんは知ってるよ。月の光はこうやって、ここから見るのが一番きれいなんだ

弟蟹 ここから見るのがきれいなのか？

兄蟹 そう。こうやって差し込む月の柱がきれいなんだ。顔を出して見たってまん丸のお月さまがぼっかり浮かんでるだけさ

弟蟹 兄さんは、見たことあるんだ

兄蟹 兄さんだからね

弟蟹 見てみたいな

兄蟹 ダメだよ

弟蟹 うん

二匹、また水面から差し込む月を眺めて

兄蟹 ・・・・やっぱり僕の泡は大きいね

弟蟹 兄さん、わざと大きく吐いてるんだい。僕だってわざとならもっと大きく吐けるよ

兄蟹 吐いてごらん。おや、たったそれっきりだろう。いいかい、兄さんが吐くから

弟蟹 見ておいで。そら、ね、大きいだろう

兄蟹 大きかないや、おんなじだい

弟蟹 近くだから自分のが大きく見えるんだよ。そんなら一緒に吐いてみよう。いいかい、そら

兄蟹 やっぱり僕の方が大きいよ

弟蟹 本当かい。じゃ、も一つはくよ

兄蟹 だめだい、そんなにのびあがっては

そのとき、大きな白い手ぬぐいが水面に入ってくる

蟹達 かわせみだ！

二匹身を隠す

兄蟹 ・・・・だいじょうぶかい？

弟蟹 うん。・・・鳥だったかな
兄蟹 違ったかい？
弟蟹 どうだっただろう

もう一度、手ぬぐいが入ってきて

兄蟹 かわせみだ！
弟蟹 違うよ、あれは、かわせみじゃないよ
兄蟹 じゃあ、なんだい？
弟蟹 手ぬぐいだよ。たまに底に流れついて来るじゃないか
兄蟹 手ぬぐいか
弟蟹 でも、夜に手ぬぐいがおりに来ることなんて、たいそう驚いたね
兄蟹 本当だね
弟蟹 本当だね
兄蟹 こんな夜に、にんげんがいるのかな
弟蟹 こんな夜に、にんげんがいるんだね。・・・どんなにんげんかな？
兄蟹 こわいところに連れていかれるよ
弟蟹 兄さん、こわいんだ
兄蟹 違うよ
弟蟹 それなら見てみようよ
兄蟹 ダメだよ
弟蟹 少しだけ
兄蟹 少しだけ？
弟蟹 少しだけ

二匹、そっと水面に顔を出して岸を見る

兄蟹 男のにんげんだったね
弟蟹 男のにんげんだった。ひとりぼっちだったね
兄蟹 ひとりぼっちだった
弟蟹 にんげんはどうして川に来るのかな
兄蟹 からだが乾いてしまったときに来るんだよ
弟蟹 いつだって水の中にいればいいのに
兄蟹 にんげんはずっと水の中にいると、寒くなって震えてしまうんだよ
弟蟹 へんだね
兄蟹 へんだね

二匹、そっと水面に顔を出して岸を見る

弟蟹 ひたいに手ぬぐいをあてていた

兄蟹 頭をひやしているんだね

弟蟹 なにか悩んでいるのかな

兄蟹 考え込んでいるのかもしれないね

弟蟹 ・・・なんだか泣いているみたいだ

兄蟹 哀しいことがあったのかな

弟蟹 僕、聞いてこようかな

兄蟹 何を聞くんさい

弟蟹 どんな哀しいことがあったのか

兄蟹 にんげんの言葉がわかるのかい？

弟蟹 わからないや

兄蟹 それなら聞けっこないだろ

弟蟹 でも、あんなに哀しそうだから

兄蟹 月の灯りをあびているからだよ

弟蟹 そうかな

兄蟹 そうだよ

弟蟹 僕、ちよつと行ってくる

兄蟹 ダメだよ

弟蟹 だいじょうぶ。悪いにんげんじゃなさそうだ

兄蟹 そうかな

弟蟹 そうだよ。子どもじゃなかったもの

兄蟹 大人だって悪いにんげんはいるよ

弟蟹 大人は僕たちに気づきはしないよ

兄蟹 たしかに。でもどうだろう、あの男は。大人というには幼く見えるし、子ども

弟蟹 というには大人びているよ

兄蟹 僕たちには気づくけど、僕たちをこわいところに連れて行ったりはしないかも

二匹は、男の元に近づいていく

弟蟹 どうしたんですか？なにか哀しいことがあったのですか？

兄蟹 聞こえっこないよ

弟蟹 おおい

兄蟹 わ！こっちを見た！

姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹

きれいなね、姉さん
きょうは月の灯りが明るい
ね、どうして隈畔にいるの
どうしてあなたはついてきたの
姉さんが隈畔に行くの、見えたから
どうして見えたらついてくるの
妹だから
そう
うん、いけない？水の中、入っちゃダメよ
なにそれ

姉妹

小さな谷川の天井に映した青い幻燈（げんとう）です。

川の水面に月の光が差し込んでいます

弟蟹 兄蟹 弟蟹 兄蟹 弟蟹 兄蟹 弟蟹 兄蟹

ぼくの言葉がわかるんですか？
わかりっこないよ、ほうら、そっぽを向いた
そっか。兄さん。月はやっぱり、水の中のほうがきれいだね
そうだね、でも、まん丸だ
まん丸だ

少し離れた川にかかる橋の上を蒸気機関車が通る

機関車って言うんでしょ
機関車って言うんだね
空の上の橋を走ってる。どこにいくのかな
機関車の灯りが僕らの川に落ちてるよ
兄さん、きれいだね
きれいだね

二 場

九 月 の こ と

その15年後。1931年（昭和5年）、九月の夜。福島に住む姉妹二
人が阿武隈川を眺めている

姉 妹 姉 妹

驚くだろうね
驚くだろうね
知らないか
手ぬぐいって知ってるかな

姉 妹 姉 妹

暑いのか？
暑くない？
うん
そう。・・・いま、この水の中に生き物がいたら、驚いたかな。急に白い手ぬぐい

姉 妹 姉

・・・まだ私の方が大きい
背伸びしてるから
してないよ

姉、手ぬぐいを水に濡らして

妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹

河童にさらわれてしまう
河童なんていないでしょ
そんなことないよ、父さんが言った。子どもを連れてくって、怖い所に
子どもじゃないもの
そう？
そう。・・・信じてるの？
まさか
でも、少し入りたいな
水に？
暑いから。うん、知ってる？月の光、水の中から見るととってもきれいな
水の中から見るの？
そう。差し込む月の柱がきれいなんだ。こうやって見たってまん丸のお月さま
がぼっかり浮かんでるだけ
姉さん、見たことあるんだ
姉さんだからね
見てみたいな
ダメよ、まだ子どもだから
さらわれちゃう？
二人、また月を眺めて

妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉

妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉

でもこんな真夜中から、みんな眠ってるかしら
魚って眠るの？

さあ？見てみる？

水の中？

うん

ダメだよ

少しだけ

少しだけ？

少しだけ

二人、そっと川に顔をつけて水岸を見る

蟹ね

小さな蟹。ひとりぼっちでこっちを見てた

ひとりぼっち

ずっとひとりだったのかな

もしかしたら、兄弟がいたのかも

そんなことあるかしら

ないか

水、気持ちいい

うん

なに悩んでるの？

え？

姉さん

うーん、今年は寒くて、凶作ねって

ざんねん。あとは？

あとは・・・なんだろう、柳条湖（りゅうじょうこ）のこと？

うそだ

そんなことないよ

柳条湖ってどこ

満州じゃないの？

すごい

新聞に載ってただけ。詳しくは知らない

すなおね

うん

・・・レコード出たんだってね

姉

機関車

二人、水から顔を出して月を眺める
少し離れた川にかかる橋の上を蒸気機関車が通る

姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉

・ ・ ・ どうしたんですか？ なにか哀しいことがあったのですか？
聞こえっこないよ
おおい
わ！ こっちを見た！
私の言葉がわかるんですか？
わかりっこないよ、ほうら、そっぽを向いた
そっか。 ・ ・ ・ 月はやっぱり、水の中のほうがきれいだね
そうね、でも、息が続かない
ざんねん

姉、もう一度水の中に顔を入れて

姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉 妹 姉

誰の？
知ってるくせに
知らない
知らないの？
うん、なにも知らない。銀行に勤めたことも、イギリスのコンクールで二等取ったのも、昨年六月に結婚したことも、何も知らない
名前も
うん、名前も知らない。ずっと遠くにいっちゃった。見上げる月だってもう違うの？
違いの？
だって水の中で見る月と、こうして見る月はおんなじ？
おんなじじゃないの？
さあ。
・ ・ ・ ハーモニカ、素敵だったね
・ ・ ・
姉さん、哀しそう
月の灯りをあびているから
そうかな
そうよ。 ・ ・ ・ さっきの蟹も気のせい。哀しそうなのは

妹 姉 妹 姉 妹

機関車

空の上の橋を走ってる。どこかに連れて行った機関車

機関車の灯りが川に落ちてる

きれいだね

きれいだね

古関裕而が作曲した『あぶくま川』がハーモニカで聞こえてくる。
遠くから蒸気機関車の汽笛。劇終